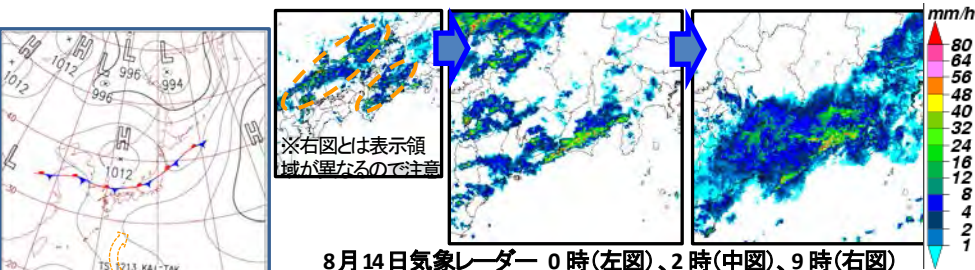


### 1. 気象経過

本州上には、東西にのびる前線が停滞していた。一方、上空には気圧の谷が接近しており、日本の東海上に張り出す高気圧の縁辺にそって、暖かく湿った空気(暖湿流)が前線に向かって流れ込んでいた(地上天気図橙矢印)。気圧の谷の東進により、西日本では前線近傍で暖湿流が集まる(収束する)ラインが幾つか発生し、带状に積乱雲が発生、発達し東進していた(気象レーダー左図橙破線)。一方県内西部山地では、13日中から断続的に雨が降り、冷氣塊が形成されていたことから、南西風の暖湿流との間に局地的な前線が次第に顕在化し(アメダス気温・風分布図)、積乱雲の発生、発達、衰弱を繰り返していた。13日21時浜松(防衛省)では、高度500m付近で相当温度 $\times 359K$ 、自由対流高度 $\times 2944hPa$ (高度約500m)、平衡高度 $\times 3131hPa$ (高度約1500m)で、大気の状態が非常に不安定となっていた。ここに14日未明から明け方と朝の2回を中心に、上記带状の積乱雲を発生させていた暖湿流が流れ込み、非常に激しい雨が降り、大雨となった。アメダス掛川では14日8時46分までの1時間に86.5mmの猛烈な雨が降り、観測史上2位を更新した。

※1相当温度:ある高さの空気塊のエネルギーを同じ条件下(1000hPa気圧面)で比較するため換算したもの。暖候期の高度1500m付近の相当温度の目安としては、330Kを越えると短時間強雨の可能性が高まり、340Kを越えると大規模な災害が発生するような大雨に警戒が必要となる。単位は絶対温度(K:ケルビン)

※2自由対流高度:空気塊が自力で浮上できるようになる高度※3平衡高度:空気塊が自力で浮上できなくなる高度

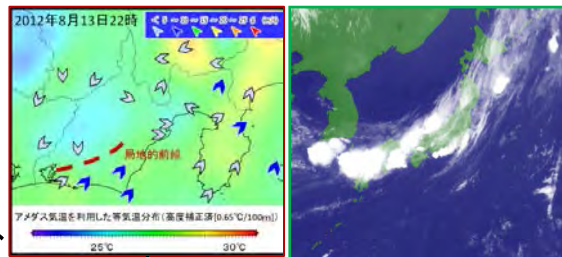


8月14日気象レーダー 0時(左図)、2時(中図)、9時(右図)

8月14日9時地上天気図

### 2. 大雨の特徴

数時間の小康状態を挟んで2回の明瞭なピークがあった。1回目は、暖湿流の動きが遅かったため、未明から明け方にかけて、遠州南の広い範囲で激しい雨が数時間続き、3時間解析雨量で120mmを越える大雨となった(気象レーダー中図)。その後、朝には気象レーダー左図にある西側橙色破線の強雨域が、次第に弱まりながら東進してきたが、遠州南では、局地的な前線近傍で再び積乱雲が急激に発達した(気象レーダー右図)。短時間かつ局地的であったが、1回目の大雨による増水の影響のあった地域で浸水害が広がった。雨雲が発生すれば、県内どこでも大雨となるような不安定な場の中で、雨雲を発生させる要因のあった、遠州南に大雨が集中した。



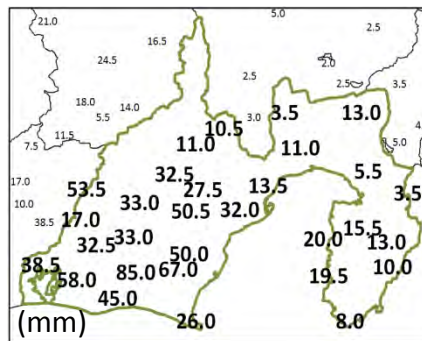
8月13日22時 アメダス気温(高度補正 0.65°C/100m)・風分布図  
8月14日4時 気象衛星 赤外画像

### 3. 被害概要

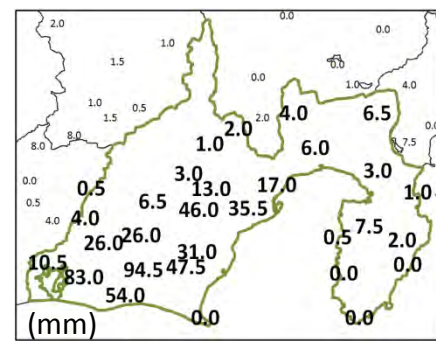
	床上浸水(棟)	床下浸水(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	死者行方不明者(人)	重傷者(人)	軽傷者(人)	崖崩れ(カ)	道路(力所)	橋りょう(カ所)	河川(力所)	砂防(力所)	鉄道普通(力)
全県	4	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西部	4	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伊豆	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

被害数は、静岡県 平成24年における災害の状況による

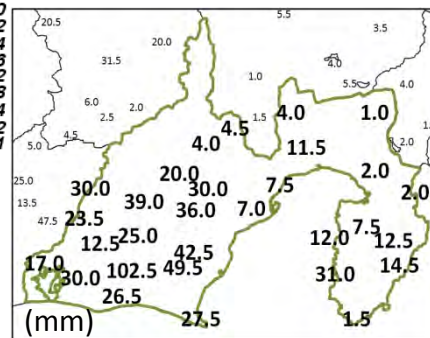
### 4. アメダス雨量分布図



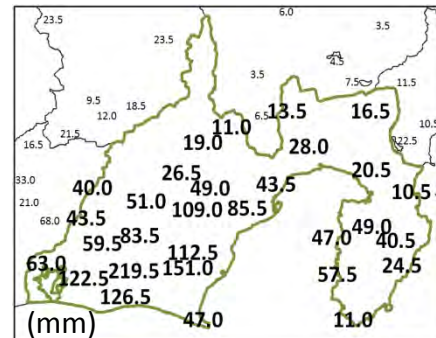
アメダス1時間雨量(正10分毎) 8月13日～14日の最大値



アメダス 3時間雨量(正時毎) 8月14日2時～4時

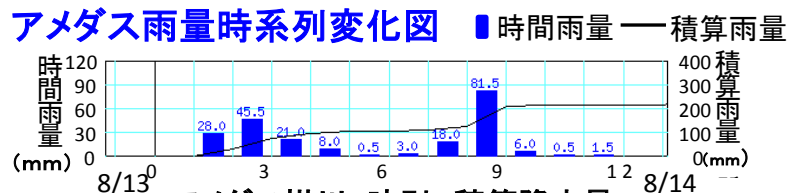


アメダス 3時間雨量(正時毎) 8月14日7時～9時

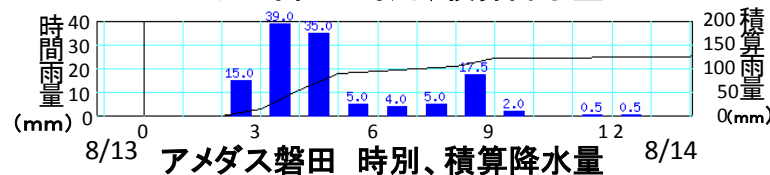


アメダス日雨量 8月14日

### 5. アメダス雨量時系列変化図



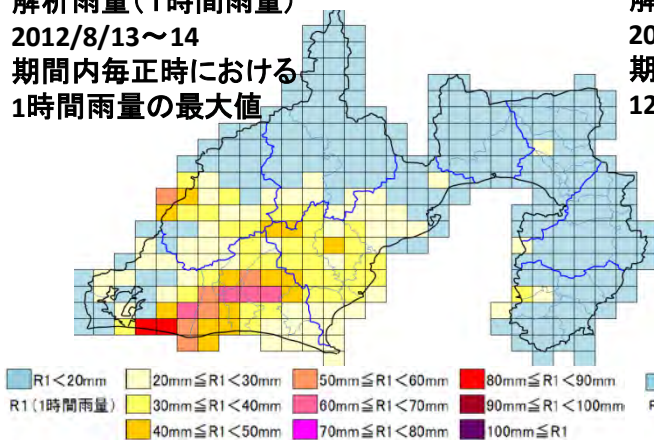
アメダス掛川 時別、積算降水量



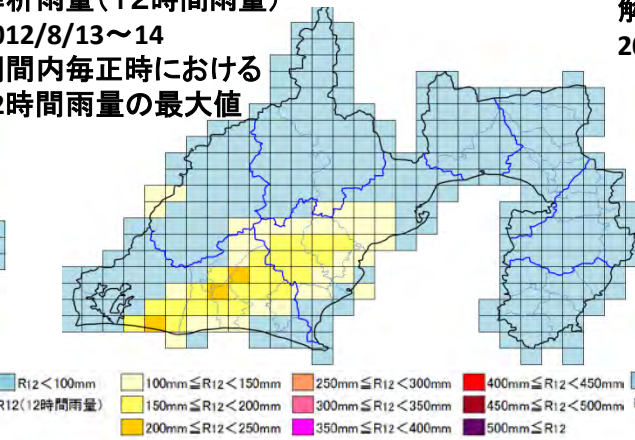
アメダス磐田 時別、積算降水量

# 6. 解析雨量分布図

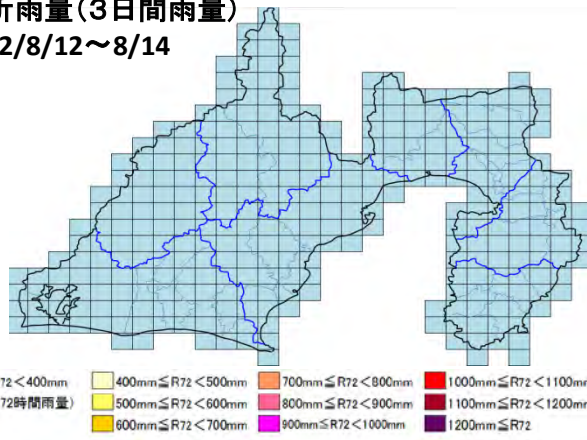
解析雨量(1時間雨量)  
2012/8/13~14  
期間内毎正時における  
1時間雨量の最大値



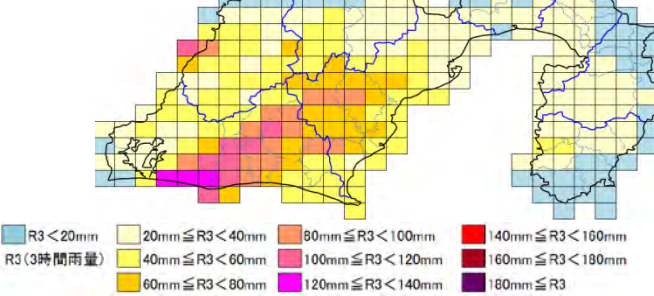
解析雨量(12時間雨量)  
2012/8/13~14  
期間内毎正時における  
12時間雨量の最大値



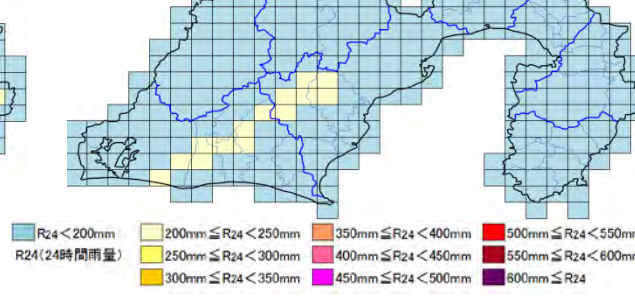
解析雨量(3日間雨量)  
2012/8/12~8/14



解析雨量(3時間雨量)  
2012/8/13~14  
期間内毎正時における  
3時間雨量の最大値



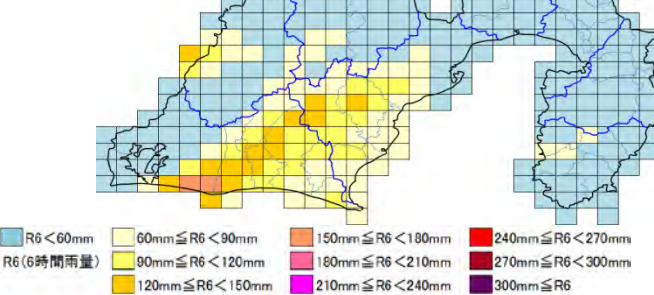
解析雨量(24時間雨量)  
2012/8/13~14  
期間内毎正時における  
24時間雨量の最大値



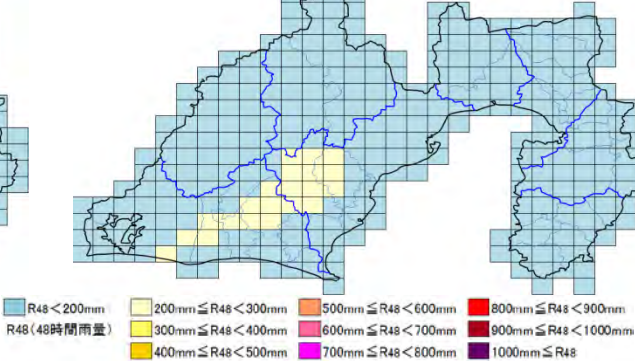
# 7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)



解析雨量(6時間雨量)  
2012/8/13~14  
期間内毎正時における  
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)  
2012/8/13~8/14



# 解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

浜松市の南岸から北東にのびるように強雨域が広がっている。浜松市の強雨域は、降った雨が、直ぐ海へと流れる地域であったが、袋井市では山沿いを中心に3時間で100mmを越える雨となったことから、下流域で河川水位が上がり、二度目の強雨で浸水害を広げる要因となった。